

様式第8

平成26年度循環型社会形成推進地域計画目標達成状況報告書

地域名	構成市町村等	計画期間	事業実施期間
山口県防府市	防府市	平成19年度～平成25年度	平成19年度～平成25年度

1 目標の達成状況

(ごみ処理)

指標・単位	現状(割合 ^{※1}) (平成17年度)	目標(割合 ^{※1}) (平成26年度) A	実績(割合 ^{※1}) (平成26年度) B	実績B /目標A	
排出量	事業系 排出量	17,068 t	16,552 t (-3.0%)	13,296 t (-22.1%)	80.3%
	1事業所あたりの排出量	3.4 t/事業所	3.3 t/事業所 (-2.9%)	2.8 t/事業所 (-17.6%)	84.8%
	家庭系 排出量	34,055 t	32,343 t (-5.0%)	26,420 t (-22.4%)	81.7%
	1人あたりの排出量	264 kg/人・年	225 kg/人・年 (-14.8%)	202 kg/人・年 (-23.5%)	89.8%
合計	事業系家庭系総排出量合計	51,123 t	48,895 t (-4.4%)	39,716 t (-22.3%)	81.2%
再生利用量	直接資源化量	1,449 t (2.8%)	2,838 t (5.8%)	675 t (1.7%)	23.8%
	総資源化量	6,840 t (12.9%)	13,916 t (27.5%)	7,252 t (17.9%)	52.1%
熱回収量	年間の熱回収量	—	10,200 MWh 熱回収	17,185 MWh 熱回収	168.5%
		—	3,400 MWh メタン	358 MWh メタン	10.5%
減量化量	中間処理による減量化量	37,665 t (73.7%)	34,517 t (70.6%)	32,087 t (80.8%)	93.0%
最終処分量	埋立最終処分量	8,390 t (16.4%)	2,226 t (4.6%)	1,219 t (3.1%)	54.8%

※1 排出量は現状（平成17年度）に対する割合、その他は排出量に対する割合

但し、総資源化量については排出量+集団回収量に対する割合を示す。

※2 (1事業所あたりの排出量) = (事業系ごみ排出量) / (事業所数)

※3 (1人あたりの排出量) = { (家庭系ごみ総排出量) - (家庭系ごみ資源ごみ量) } / (人口)

2 各施策の実施状況

施策種別	事業番号	施策の名称等	施策の概要	実施主体	事業実施期間 (事業計画期間)	施策の実績
発生抑制、再使用の推進に関するもの	11	ごみ手数料の見直し検討	ごみ処理手数料の見直し検討	防府市	H19～H25 (H19～H25)	ごみ処理手数料について検討・調査を行っているが、手数料の見直しは行っていない。今後のごみ排出量の推移を勘案し、継続して調査・検討を行う。
	12	環境教育・普及啓発活動の推進	資源ごみの回収活動に対する奨励金の交付	防府市	H19～H25 (H19～H25)	営利を目的としない住民団体の自主的な資源ごみの回収活動に対し助成を実施している。
			学校や地域を対象としたごみ処理施設見学会や学習会の実施	防府市	H19～H25 (H19～H25)	自治会や学校、各種団体に対して施設見学会及び学習会を随時実施している。ごみ減量化、分別排出に関する出前講座を随時実施している。
			廃棄物減量等推進員制度の充実強化等による住民リーダーの養成	防府市	H19～H25 (H19～H25)	各自治会の資源ごみ・危険ごみステーションごとに配置している廃棄物減量等推進員を増員し、廃棄物減量等推進員の研修会を実施している。
			リサイクルセンターを活用した住民参加型普及啓発活動の実施	防府市	H22～継続中 (H22～H25) 関連事業1	市民工房を利用した紙すき体験等を随時実施している。
	13	マイバッグ運動・レジ袋対策等	マイバッグ運動の推進・レジ袋対策の実施	防府市	H19～H25 (H19～H25)	県全体でレジ袋の無料配布中止を開始し、多くの事業者にご協力をいただいている。今後も、県と連携しながら、事業者に対してレジ袋の無料配布中止を要請していく。
	14	生ごみ対策	家庭ごみ減量容器購入補助	防府市	H19～H25 (H19～H25)	家庭用生ごみ減量容器及び電動生ごみ処理機の購入への助成を実施している。
15	再使用の推進	再生工房による再生・展示やフリーマーケットの開催	防府市	H22～継続中 (H22～H25) 関連事業1	再生工房にて再生した家具等を展示し、抽選により希望者へ無償譲渡している。	
処理体制の構築、変更に関するもの	21	施設整備に伴う分別区分の変更	循環型社会推進のための施設整備に伴う分別収集区分の変更	防府市	H21～H25 (H21～H25)	容器包装リサイクル法の対象品目の完全実施を含む分別収集区分の変更を実施した。
	22	バイオガスの有効利用	メタン発酵によるバイオガス化の推進	防府市	H22～継続中 (H22～H25) 関連事業2	平成26年度より供用を開始した可燃ごみ処理施設にて、生ごみや紙ごみ等をメタン発酵させ、発生したメタンガスを利用した高効率の発電を実施している。

施策種別	事業番号	施策の名称等	施策の概要	実施主体	事業実施期間 (事業計画期間)	施策の実績
	23	処理に伴う熱源の有効利用	発電による熱回収の効率化の推進	防府市	H22～継続中 (H22～H25) 関連事業2	平成26年度より供用を開始した可燃ごみ処理施設にて高効率の発電を実施している。
	24	事業者による排出抑制	各事業所独自での資源化や適正処理の推進	防府市	H21～H25 (H21～H25)	搬入基準の明確化や適正処理に関する説明会の開催や、パンフレットの作成等周知活動を積極的に展開した。抜き打ちの搬入物検査を実施し、違反ごみの持ち帰り指導や、資源ごみの分別指導を行っている。
処理施設の整備に関するもの	1	リサイクルセンター整備		防府市	H21～H25 (H21～H25)	防府市クリーンセンター「リサイクル施設」が平成26年度に供用開始した。
	2	高効率原燃料回収施設及び熱回収施設整備		防府市	H21～H25 (H21～H25)	防府市クリーンセンター「可燃ごみ処理施設」が平成26年度に供用開始した。
施設整備に係る計画支援に関するもの	31	1の計画支援		防府市	H19～H21 (H19～H21)	建設予定地の用地測量・地質調査を実施した。生活環境影響調査現況調査及び調査書作成を実施した。PFI事業者選定アドバイザー業務を実施した。
	32	2の計画支援		防府市	H19～H21 (H19～H21)	建設予定地の用地測量・地質調査を実施した。生活環境影響調査現況調査及び調査書作成を実施した。PFI事業者選定アドバイザー業務を実施した。
その他	41	再生利用の推進	焼却残渣の積極的な再生利用の推進	防府市	H19～H25 (H19～H25)	焼却残渣の全量セメント原料化を実施している。
	42	廃家電のリサイクルに関する普及・啓発	関係団体や小売店と連携した普及啓発の実施	防府市	H19～H25 (H19～H25)	市のホームページや市広報、家庭ごみ分別収集カレンダーを通じて随時啓発を実施している。
	43	不適正処理・不法投棄対策	啓発活動の実施、監視体制の強化	防府市	H19～H25 (H19～H25)	市のホームページや市広報を通じて啓発を実施している。啓発看板の配布を実施している。巡回パトロールを実施している。
	44	災害時の廃棄物処理体制の整備	処理体制の構築、仮置き場の選定	防府市	H19～H25 (H19～H25)	各自治会と連携して、災害時に早急に対応出来るように処理体制の構築及び、仮置き場の選定をしている。

3 目標の達成状況に関する評価

(ごみ処理)

ごみ処理における各指標ごとの数値目標の達成状況についての評価は以下のとおりである。

■排出量

平成26年度の実績は、平成17年度実績に比べ22.3%減少しており、目標値を達成している。家庭系については、平成26年4月の新施設稼動に併せて実施した分別収集区分の変更に伴い、新分別パンフレットの配布、市広報、各地区説明会等により広く市民に周知したこと、事業系については、搬入基準を明確化し、適正処理に関する周知活動を展開したこと、抜き打ちの搬入物検査を実施するなど搬入指導を強化したことが主な要因と思われる。

■再生利用量

平成26年度の実績は、排出量に対する割合が17.9%であり、目標値の27.5%に比べ下回る結果となった。この理由として、資源物の市況がよいことを反映して、民間事業者（店頭回収等）の回収が進んだことや、新聞・雑誌等の販売部数の減少等による資源化量全体の減少が要因と考えられる。

また、焼却灰は全量セメント原料化し、再生利用しているが、平成26年4月稼働開始の新施設の燃焼効率の向上に伴い、焼却灰の発生量が計画よりも大幅に減少したことも大きな要因となっている。

なお、民間事業者による資源ごみの回収が増えることについては、市民の資源ごみ回収場所の選択肢が増え、市全体としてのリサイクルの推進に繋がることから、今後も店頭回収等の取組を促進していく。併せて、市回収分についても資源ごみの分別徹底等の啓発を引き続き取り組んでいく。

■熱回収量

ごみの焼却熱とメタンガスを組み合わせた非常に高効率の発電システムの導入に伴い、平成26年度的全熱回収量は17,543MWhとなり、目標値の13,600MWhを達成している。

なお、熱回収とメタンの内訳については、熱回収については目標値を大幅に上回っているものの、メタンについては、目標値を下回っている。

メタンによる発電量が減少した主な理由として、施設全体の発電効率の向上を図る観点から、メタンガスの発電方式に、全国で初めて、ごみの焼却発電と組み合わせた「独立過熱器方式」を採用したことがあげられる。

併せて、メタンを発酵槽への熱供給源として使用したことや、市民へのごみの分別や水切り等の浸透によるメタン発酵槽への生ごみ投入量の減少も理由として考えられる。

施設全体としては、十分なメタンガスも発生していることから、今後も、メタンを有効活用し、施設全体の発電量と熱供給量の確保に取り組んでいく。

■減量化量

平成26年度の実績は、排出量に対する割合が80.8%であり、目標値の70.6%を達成している。これは、平成26年4月の新施設の稼動に伴い、焼却施設の燃焼効率が上昇し、灰の発生量が大幅に減少したこと、リサイクル施設でアルミ選別機が導入されたこと、可燃不燃選別機の精度が向上したことが要因と考えている。

■最終処分量

平成26年度実績は、排出量に対する割合が3.1%であり目標値を達成している。これは、平成26年4月の新施設の稼働に伴い、アルミ選別機が導入されたことと、可燃不燃選別機の精度が向上したことにより不燃残渣量が減少したこと、分別意識の向上によって直接埋立量が減少したことが要因と考えている。

(都道府県知事の所見)

平成26年4月から、新たに整備した高効率原燃料回収施設、熱回収施設の稼働に合わせ、分別収集の区分を見直すとともに、生ごみ等から発生するメタンガスをエネルギー源としての有効利用や、焼却灰のセメント原料化としての全量リサイクルなど、熱回収や最終処分量の削減に積極的に取り組んでいる。

また、同時期に整備したリサイクルセンターにおいては、廃家電の回収促進はもとより、処理施設見学会や地元児童・生徒を対象とした学習会、フリーマーケットや紙すき体験等の開催を通じて、市民への幅広い普及啓発活動を展開しているところである。

こうした最新鋭の施設整備と的確な運用、効果的な普及啓発活動により、ごみ排出量や最終処分量が大幅に減少するなど、目標値を概ね達成している状況にある。

現在、平成25年度から平成33年度を計画期間とする「防府市ごみ処理基本計画」に基づき、総合的・計画的に関連施策に取り組んでいるところであり、一層のごみ減量化やリサイクル率向上が期待できる。